

### ◎3～4世紀のキリスト教会跡に魚の印 イスラエルで発掘

【朝日新聞、11/07】イスラエル考古庁は6日、同国北部のメギド刑務所の敷地で3～4世紀のものと見られるキリスト教会跡を発掘した、と発表した。床には初期のキリスト教の象徴だったといわれる魚のモザイク画があり、ほかにギリシャ語で「神であるイエス・キリスト」にささげることを記した碑文などがあるという。

当時は古代ローマ帝国の支配下にあり、4世紀までキリスト教は認められなかった。イスラエル国内の報道によると、今回の教会跡は、イエスが十字架にかけられ処刑された跡に立つといわれる4世紀の聖墳墓教会（エルサレム）や聖誕教会（ベツレヘム）より古い可能性がある、との見方がある。一方で否定する見解も出ている。

メギドは、新約聖書の「ヨハネ黙示録」にあるハルマゲドン（世界最終の善と悪の決戦場）に近い場所といわれる。刑務所はパレスチナの政治犯を主に収容。刑務所の拡張工事に先だって、発掘が実施されていた。

### ◎イスラエルの「アルマゲドン」近くに教会跡、聖地最古か

【CNN/AP, 11/08】イスラエル・メギッド刑務所——新約聖書に善と悪の最終決戦の場所として言及されるイスラエル北部ハルマゲドン（アルマゲドン）近郊のメギッド刑務所で、紀元3世紀のものと思われる教会跡が見つかった。イスラエルの考古学者たちによると、同国最古の教会かもしれないという。

AP通信によると、新棟建設のための拡張工事を控え、現場の発掘作業中だった受刑者が6日、土中から教会の床部分だったと見られるモザイク画2枚を発見した。

1枚は初期キリスト教の象徴だった魚がモザイクで描かれている。もう1枚には「神である主イエス・キリスト」を称える教会建設のために寄付をした「アクトウス」という名の女性と、ローマ士官について記されていた。

この地域は3～4世紀当時、古代ローマ帝国の支配下にあり、キリスト教は認められていなかった。

発掘を指揮する考古学者ヨタム・テッパー氏によると、教会跡の年代特定には、発掘された陶器やモザイク画の幾何学模様、ギリシャ文字の様式などが手がかりになる。さらに、4世紀以降の教会では「十字架」がキリストの象徴として使われるが、ここではそれ以前に主流だった「魚」が使われているため、教会跡は3世紀ごろのものだと判断できるという。

「アクトウス」という名の女性が、教会にテーブルを寄贈したことも書かれており、モザイク画と一緒にテーブルの断片も見つかった。

テッパー氏によると、4世紀末のローマ帝国分裂とキリスト教の国教化より前は、キリスト教のミサは祭壇ではなくテーブルを使っていた。このことも、教会の年代特定の資料となる。

テッパー氏は今後も発掘調査を続行するとしている。建設予定の刑務所新棟には、パレスチナ人の受刑者約1200人が収容される見込み。

ローマ法王庁も今回の発見を喜び、在イスラエルのバチカン大使ピエトロ・サンピ大司教は、「こういった発見によって、イスラエルが全世界のキリスト教徒にとってこれまで以上に興味深い場所となる。教会と美しいモザイク画が本当に3世紀当時のものだとすれば、中東地域でも最も古い教会のひとつだろう」と話している。

## ◎「創造論」支持派が委員落選、「神が怒る」と宗教指導者

【CNN/REUTERS, 11/11】ワシントン（ロイター） 米北東部ペンシルベニア州南部の町ドーバーで8日、教育委員会の選挙があり、「インテリジェント・デザイン（ID）」と呼ばれる「創造論」を支持する8人が落選した。これを受け、煽動的発言で知られる米キリスト教保守派の指導者パット・ロバートソン師（75）が10日、町が「神」を拒絶したと批判し、「神が怒りを下すだろう」などと発言した。

ロバートソン師は、過激な発言で知られ、これまでも物議を醸している。

IDは「複雑な宇宙は、より高度な力によって創造された」などと主張する考え方で、ダーウィンの「進化論」を否定し、キリスト教の「神が人を創ったとする」考え方に同調する。宗教右派などが支持している。

再選できなかった8人は、高校の生物の授業でダーウィンの「進化論」は「確立した学説ではない」と言及し、生物の発生に関しては「創造論」の可能性もあると教えるよう求めた意見書を提出する予定だった。

ロバートソン師は自身が持つテレビ番組「クリスチャン放送網」（CBN）で、8人の落選を批判。「ドーバーの善良な人々に伝えたい。もし、あなた方の住む地域で災害が起こったとしても、神を頼りにするな。あなた方の町が、神を拒否したのだから」と語った。

また、「困ったことが起こるときに神の助けがないことを、不思議に思っはいけない。困ったことが起こるとは言っていないが、しかし、もし起こったとしても、神を自分たちの町から追いだしたことを思い出すべきだ。もし、問題が発生しても、神に助けを求めな。神はもうすでに、そこにはいないのだから」とも述べた。

ロバートソン師は今年の夏、反米姿勢を深めるベネズエラのチャベス大統領を、「北米全体に共産主義とイスラム教過激思想を浸透させようとしている」と非難。同大統領などの反発を招き、発言を一部修正している。

また、1998年には、フロリダ州オーランド市が同性愛者団体の活動を許可したことを批判し、同市にハリケーンや地震、テロ攻撃などの災害が発生すると警告している。


## ◎イスラム社会に連帯呼び掛け＝コーラン引用し過激派非難－米大統領

【時事通信、11/12】ブッシュ米大統領は11日、ペンシルベニア州の米軍施設で「テロとの戦い」をテーマに演説した。大統領はヨルダンの同時爆弾テロに関し、「イスラム過激派の殺人思想は今世紀の重大な挑戦だ」と非難。その上で「今こそ責任あるイスラムの指導者は、高貴な信仰を汚す思想を糾弾する時だ」と述べ、イスラム社会に対テロ戦争への連帯を呼び掛けた。

大統領は「無実の人を殺すのは全人類を殺すようなことだ」と説いたイスラム教の聖典コーランの一節を紹介し、「過激派のイデオロギーは、イスラム教の教義とまったく異なる」と指摘。イラクとアフガニスタンの民主化やパキスタンの災害支援に取り組む米国は、善意のイスラム教徒の味方だとの立場を強調した。



## ラテンアメリカ解放の神学




## 神学とコンテキスト

- ◆〈誰が〉
- ◆〈どこで〉
- ◆〈何のために〉
- ◆〈どのような〉

神学を必要とするのか。

- ◆ 西欧キリスト教の伝統では、真理の「**普遍性**」が強調されてきた(コンテキストの軽視)。


2



## 解放の神学の成立

- ◆ 前提としての「民衆」
  - 「キリスト教基礎共同体」における活動
- ◆ 第二バチカン公会議(1962-1965)
  - 教会と現代世界との対話(カトリックの現代化)
  - 諸教会の一致
  - カトリック教会自体の回心
- ◆ 第二回ラテンアメリカ司教会議(コロンビアのメデリン、1968年)
  - グスタボ・グティエレス「解放の神学」


3



## G.グティエレス『解放の神学』(1971年)

- ◆ キリストは、終末論的約束を霊的なものとはしない。
- ◆ J.モルトマンの「希望の神学」を評価。
- ◆ 希望は歴史的实践のただ中に根ざしたものでなければならない。そうでなければ、希望は単なる逃避、未来の幻想にすぎない。


4



## 解放の神学の特徴

- ◆ 聖書を読み直す主体は「民衆」である。
- ◆ 「民衆」= 貧しい人々
- ◆ 聖書の解釈そのものより、「聖書による」人々の生活の解釈(理解)の方が重要とされる。


5



## 「罪」とは？

- ◆ 貧困や抑圧などの不正義を(制度化された暴力)による(罪の状態)とした。
- ◆ 内面的な罪のみならず、**現世的・社会構造的罪**からの解放と、より人間的・福音的な社会への解放を目指す。
- ◆ マルクス主義を方法論として用いる。
  - 1) 経済的要因の重要性。
  - 2) 階級闘争への着目。
  - 3) イデオロギーのカへの注目。


6



## 「貧しい人々」

- ◆ 貧しい人々＝政治的・経済的な被抑圧者。
- ◆ 近年の解放の神学は「階級的」概念を越えようとしている。
  - －「貧しい人々」＝黒人、先住民、女性。
- ◆ 貧しい人々を選択するための神学的根拠
  - － 神論的根拠：出エジプト記3:7-9
  - － キリスト論的根拠：ルカ福音書6:20, 7:21-22
  - － 終末論的根拠：マタイ福音書25:40
  - － 使徒的根拠：ガラテヤ書2:10


7



## 「神の国」とは？

- ◆ 神の国は歴史的解放の中に待望され、受肉する。
- ◆ 解放の神学によるイエス理解と、最新の聖書学によるイエス理解は近接している。

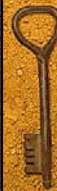
8



## 解放の神学の今後の課題

1. 地球規模の貿易至上主義に特有な抑圧からの解放と取り組むこと。
2. 情報化され組織化された官僚社会に特有な抑圧からの解放と取り組むこと。
3. 諸教会で影響力をふるっている宗教原理主義による抑圧からの解放と取り組むこと。
4. 移民と難民の多い時代においてすべての垣根を超えた連帯を結ぶこと。
5. 人間不在の時代に特有の状況からの解放に努めること。
6. 神学の世界における行き詰まりを打破するために、「神学の解放」にも取り組むこと。

9



## 解放の神学の影響

- ◆ フィリピンの反マルコス独裁闘争(1986年)
  - － ピープル・パワー革命
- ◆ 韓国の民衆神学による民主化運動(1970年代)
- ◆ 南アフリカにおける反アパルトヘイト闘争
  - － 1990年、アパルトヘイトの終結を宣言。
  - － 1994年、マンデラが大統領に就任。

10